

## 改善計画書

施策番号	担当部	担当課	職名	氏名	電話番号(直通)	
12220	保健所	健康企画課	課長	川上 宏	042-769-8344	
施策名	保健サービスの充実					
施策の目的	<p>医療機関等と有機的な連携を図り、乳幼児期から高齢期に至るまでのライフステージに応じた身近で適切な保健サービスの提供に努める。また、難病対策、感染症予防に対する知識の普及、啓発や相談体制の充実に努める。</p> <p>事業展開においては、ライフステージに応じた保健事業の充実を図るため母子・成人保健に係る各種健診・相談事業や生活習慣病予防対策事業を行うと共に、予防接種事業や精神・難病・結核・感染症予防対策事業等を行っている。</p>					
これまでの取組	<p>基本健康診査を51,928人に実施した。結果内訳は、異常を認めず7,291人、要指導18,712人、要医療25,925人であった。</p> <p>がん(胃、子宮、乳、肺、大腸)検診を延べで89,376人に実施した。その結果、要精検者が6,528人、うち、がん確定者が135人であった。</p> <p>予防接種を次のとおり実施した。急性灰白髄炎延べ11,076人、三種混合延べ23,065人、高齢者インフルエンザ42,688人</p>					
評価結果 (平成17年度実績評価)	1次評価	A	2次評価	B	3次評価	B
	<b>3次評価での指摘事項等及び意見</b> <b>( は行政評価検討委員会としての指摘事項・改善要望項目、 は各委員の意見)</b>					
	<p>中央保健センターの実施した事業の成果が、市民にとってメリットとしてわかるような具体的な指標を設定すること。</p> <p>市民の自己管理による部分が多い施策であるため、他市等との比較が出来るようなベンチマーク的な指標を用いた啓発も必要である。</p> <p>指標2(基本健康診査受診率)については、単独で設定するよりも他の指標と組み合わせた方が効果的なのではないか。</p> <p>市民の自己責任に負うところが大きな指標であるが、市民理解を得るには、指標の数値が上がった場合のメリットが見えると良いのではないか。</p> <p>財源を投入すれば、成果が上がるのは当然なので、指標については、受診率ではなく、生活習慣病の削減率や骨粗しょう症の削減率などが相応しいのではないか。もっと具体的な成果を指標として示す方が市民理解を得られるのではないか。</p> <p>結果指標だけでなく、目標達成のための行政の活動を測れるような指標設定があってもいいのではないか。</p> <p>国の指標などベンチマーク的な指標も必要である。</p>					
3次評価の指摘事項を踏まえた課題整理	<p>市民にとってのメリットがわかるような指標設定を行うことで、市民の理解を深め、協力を得られるような事業展開(周知方法の見直し等)を図る。</p> <p>受診率と死亡率の関係など市民が客観的に判断できるようなデータを提示することで、更なる啓発を図る。</p> <p>他市の実施状況等との比較・分析ができる指標の設定を図る。</p>					

改善計画	改善目標及び改善時期	平成19年度中に行政活動に基づく成果指標の設定及び比較可能なベンチマーク指標の設定を行う。	
	具体的な改善方策	指摘を受けた指標について、基準値・目標値設定とあわせ、他市の状況や各種統計から指標の選定を行う。	
	成果指標の設定	実施の時期	平成19年度末までに
		死亡者に占める3大死因の率 など行政活動の結果、もたらされるべき成果を測る指標を設定する。	
	ベンチマーク指標の設定	実施の時期	平成19年度末までに
悪性新生物による死亡率(10万人対) 心疾患による死亡率(10万人対) 脳血管疾患による死亡率(10万人対) 以上について、他市の状況を把握し、分析した上で、基準値・目標値を定める。			
改善結果	改善目標の達成状況		
	評価及び今後の取組方針等		